

若手監督官（石川労働局採用）インタビュー

Q. 監督官を志望した理由は？

【法文系区分採用】 令和8年4月 任官

父が労働災害に遭い、右手薬指の第一関節を切断しました。労働災害を未然に防ぐための仕事ができる労働基準監督官に興味を持ちました。生まれ育った地域で働きたいと思っており、国家公務員でも最終的に定着した都道府県内の異動のみということを知りました。説明会を通じて、会社・労働者に対し法律やその趣旨を自分の言葉で丁寧に説明することが求められ、多岐の業種に渡る労働者に直接関わることができること、公務員として珍しい司法警察権を持つこと、強い責任感が必要なことなどに魅力を感じました。



Q. やりがいを感じる場面はどんな場面ですか？

現場に立ち入り、テレビやSNSで得た知識や勉強した機械や製造が実際に行われ、日本のものづくりの瞬間を生で見ることができることです。その中で安全を確保するための指導や、事業主と一体となって安全の確保に努めるための話し合いをすることもあり、労働者だけでなくその家族を守ることに繋がっていると感じます。

Q. 試験勉強はどのようにしていましたか？

私は労働法と憲法と数的処理に時間を割いて勉強していました。監督官は人と話す仕事で、2次試験（面接）が大切で、準備に力をいれていました。説明会に参加し、監督官の仕事や向いている人物像、やりがいなどを現役の先輩から聞いて面接で上手くまとめるように練習を重ねました。面接での質問をたくさん想定し、回答を準備しておくことが大切だと感じました。